

インターネットを活用した河川学習支援の取り組みについて
 ~河川学習システム「最上川電子大事典」の取り組み事例について~

東北地方整備局 山形河川国道事務所 調査第一課 ^{みなざわ かずや} 皆澤 和哉

1. はじめに

平成14年度より総合的な学習の時間がスタートし、河川がその学習素材として注目されるようになってきた。また、全国的に見ても、河川に関する様々な情報が求められている時代である。

そこで、今や情報提供のツールとしては欠かせないインターネットを通じ、県内外の大人から子供までの幅広い世代の人々に山形県の「母なる川」最上川を中心とした河川の情報を提供し、学習していただくことを目的に、山形河川国道事務所ホームページ内に河川学習システム「最上川電子大事典」を公開している。



最上川電子大事典トップ画面

2. 河川学習における課題と大事典作成の経緯

電子大事典を作成する経緯として、教育機関と行政機関との情報共有や連携不足、学習素材の未整理、川に関する情報不足、河川管理者単位の縦割的な情報発信等の課題があり、総合的に最上川水系について学習できる環境が整っていなかった。

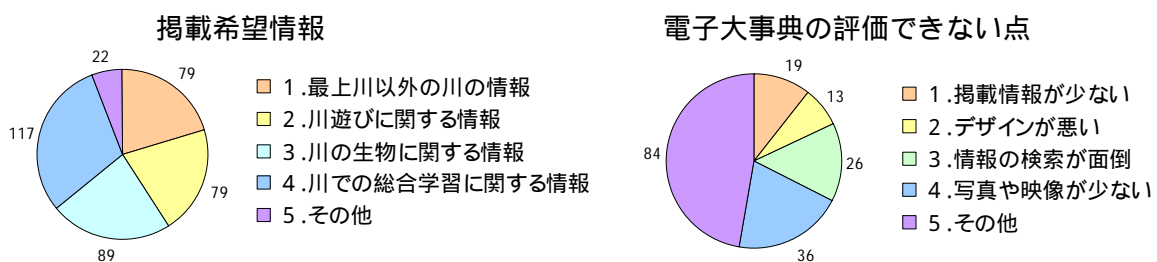
こうした中で、平成14年11月に最上川水系河川整備計画の策定を契機とし、「インターネット等を通じた分かりやすい情報提供」、「地域に根ざした河川学習支援」を目指し、河川学習素材を体系的に整理・発信していく場として検討が始まった。

3. 電子大事典を作成する上でのポイント

これらの課題も踏まえ、電子大事典を作成する上で特徴づけられるポイントとしては、「利用者の視点に立ったページ作成」、「閲覧者参加型のページ作成」、「他の学習素材との連携」、「情報の集約・一元化」にある。具体的な取り組みについては、次に示すとおりである。

利用者の視点に立ったページ作成

小中学校等での総合学習の素材や、一般の方々が河川に対する知識・理解を深める情報源として利用していただくため、利用者ニーズに即した情報提供を行う過程として、県内の教育機関、NPO等へアンケート、ヒアリング調査を実施した。



アンケート結果の一例

これらのアンケート、ヒアリング結果を元に、要望の多かった「川遊びに関する情報」、「河川学習のメニュー案」を追加したほか、多様な検索機能（学習素材のジャンル毎の検索、地域毎の検索、言葉による検索、検索エンジン）等を追加した。

「川ガキマップ」



川辺で遊んでいる子供達のことを「川ガキ」と呼び、この「川ガキ」のいる場所をまとめたのが「川ガキマップ」である。



川遊びのできるポイントの紹介

河川学習のメニュー案

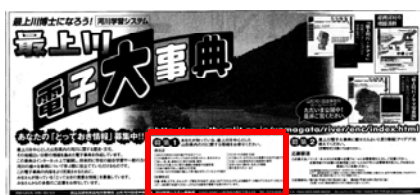


河川学習の事例紹介

閲覧者参加型のページ作成

身近で分かりやすいホームページとするため、行政からの一方通行的な情報提供をするのではなく、「一般の人が持っているアイディア」や「地域の人だからこそ知りうる情報」等を大事典に掲載し、一般住民等にも電子大事典づくりに参加していただきながらページを充実させてきた。

情報の募集については、インターネットや新聞広告に加え、県内各自治体の広報誌へのチラシ折込、イベントや出前講座など様々な手段・媒体により最上川電子大事典をPRしたことにより、多くの有益な情報が得られた。



募集1 あなたが持っている、最上川を中心とした山形県内の川に関する情報をお寄せください。

例えば

- あなたの好きな川沿いの遊びや水辺イベント
- 川の水量やイベントとしてのお花見スポット、名木スポット
- 珍しい魚、鳥、植物などに関する動物・植物
- 漁業などの川に関わる重要な体験談や記録写真
- 川沿いの場所や珍しい道具などの写真
- お気に入りの川を活動の場として取り組んでいる人々の紹介
- 川にまつる昔話・伝説
- 川で遊んでいる子どもたちの風景や川沿いの遊び方
- 川沿いにある歴史的な文化施設等の資料
- 近所にある「湧き水・名水」の情報
- 魚の見学スポット など

【応募形式】
文章、写真、ビデオ、カセットテープ等をそのまま、あるいはデジタルカメラによる撮影データ等のデジタルデータをパソコン、MO等でお送りください。どのような媒体の情報でも受け付けています。

新聞広告



折込チラシ



イベントでPR



出前講座の教材として活用



H 9.6 洪水時の大蔵村での映像
(素材提供の事例)



最上川に架かる橋
(アイデア提供の事例)

他の学習素材との連携

電子大事典作成以前もパンフレット等の学習素材はあったが、各々が独立した内容で利用する側にとっては学習しにくい素材となっていた。そのため、山形県内の小学校に河川学習教材として配布している副読本「わたしたちの最上川」の内容と大事典の内容を関連させることにより学習を発展的に進められる構成とした。



副読本「わたしたちの最上川」



最上川電子大事典のジャンル選択画面

情報の集約・一元化

最上川を管理する国土交通省の事務所（山形、新庄、酒田、最上川ダム統管）ごとにホームページで情報提供しているため、最上川の情報を知るためには各事務所のホームページにアクセスし情報収集する必要があった。

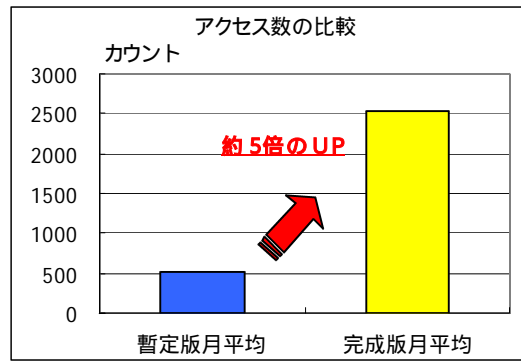
しかし、電子大事典の公開により最上川を含む山形県内の河川の歴史、文化、その他幅広い分野の情報を集めた河川学習素材を集約・一元化でき、最上川を中心とした山形県内の河川を網羅した学習が可能になった。



4. 電子大事典のアクセス状況

電子大事典は、当初は行政側で収集した情報を中心に掲載していた暫定版(H15.9～H17.4)を公開していた。この暫定版と比較して、アンケート結果や一般住民からの情報を反映して公開した完成版(H17.5～)は全体としてアクセス数が**約5倍**に増加している。

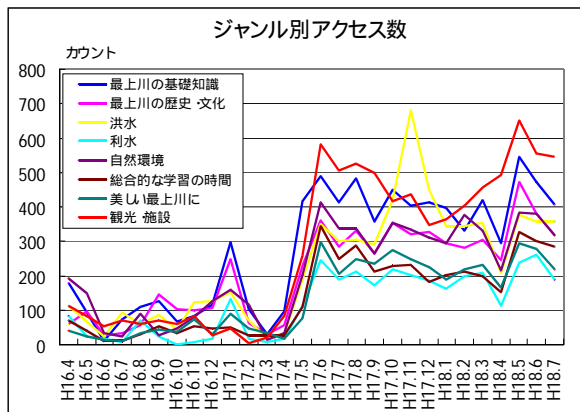
また、山形河川国道事務所ホームページの月間アクセス数ランキングにおいても常にTOP5を維持しており人気のコンテンツとなっている。



5. 今後の課題

電子大事典は学習内容別に8つのジャンル(最上川の基礎知識、最上川の歴史・文化、洪水、利水、自然環境、総合的な学習、美しい最上川に、観光・施設)で構成されているが、ジャンルや季節(特に冬)によってアクセス数に偏りがあるため、人気のあるジャンル(例えば観光)をきっかけとして他のジャンルにもアクセスしてもらえるように関連リンクを増やすなどの工夫や季節に応じた情報提供、ページデザイン等の改善が必要である。

また、電子大事典は一般の人にも分かりやすい内容にするよう心がけて作成しているが、小学校低学年の子供達には内容的に難しいという意見もあるため、試行的にイベント等で活用し好評を得ている「最上川ものしり大事典(電子大事典の子供向け版)」のホームページへの公開も検討している。



最上川ものしり大事典

6. さいごに

インターネットは不特定多数の方々に情報を発信し、コミュニケーションをとる手段として大きな可能性を持ったツールである。例えば、電子大事典には風景や施設の写真を数多く掲載しているのが特徴の一つであるが、マスメディアからの写真の提供依頼をはじめ、学習教材等への掲載要望が四国や九州からも問い合わせが来ている。このように全国の人に関心を持たれ学習していただけることで、河川事業への理解、河川愛護等へ繋がるようにこれからもページ作成に励んでいきたい。